

# 公共民間単組2023春闘の取り組み

春闘期に賃金交渉を行う公共民間各単組は、具体的な獲得交渉の実施、秋闘期に賃金確定となる場合は春闘期において基本的な労使関係のルールを基本とした交渉により、年間を通じた交渉スケジュール確立し、すべての単組が春闘に結集し、「要求・交渉・妥結（書面化・協約化）」に取り組むことを方針としました。春闘期に賃金闘争を行う労組の交渉状況は以下の通りです。（5/30現在）



単組名	妥結状況（到達点）
環衛サービス労組	要求は、正社員、契約社員、60歳以上等、雇われ方に関わらず16,500円以上の賃上げ。正規・非正規を問わず一律5,000円の賃上げ、今後の昇給査定については組合と協議することで妥結。
ヨドセイ労働組合	要求は、非正規からの正社員の補充15人、16,500円以上の賃上げ、年間一時金を一人平均1,500,000円支給、定年延長（65歳まで）、組合休暇30日、病気休暇制度の導入。社員補充10人、賃上げなし、一時金昨年実績、定年延長は、組合と協議し、2025年までに実施する。組合休暇20日、感染症（インフル・コロナ）については様子を見て管理者の判断のもとに行う。また、破傷風予防接種を取り入れるとの回答を引き出し、妥結。
日野環境保全労組	要求は組合員一律11,000円の賃上げ、各種手当の新設。賃上げ8,000円、各種手当について今後の検討として、妥結。
東京交通協力会労組	要求は、正規職員、月給契約職員について定期昇給+賃金改善分6,000円以上、時給制契約職員（広告掲出業務）の時給50円から100円の引き上げ、時給制契約社員の定期昇給を現行2年10円から1年10円にすること。また、55歳以上の昇給抑制を廃止すること。正規職員、1等級5,100円から9,200円（平均2.48%）、2等級2,100円から4,900円（平均0.95%）、3等級900円から2,500円（平均0.46%）、月給制契約職員は、すべての号給で4,100円（2.4%）、時給制契約職員は、50円、再雇用職員50円から100円の引き上げであった。「地下鉄広告以外の業務の時給単価」「時給制契約職員の時給単価決定のあり方」「55歳以上の昇給抑制」について継続協議とし妥結。
環境サービス労組	要求は本給の12,000円の引き上げ、パートの時間給を1,180円以上にすること、一時金年間4.5ヶ月支給。事務職（I、II、上）、運転職（II、上）は6,000円、運転職（I）は7,000円、再雇用、嘱託は8,000円、パート時間給50円の賃上げ、一時金、年間3ヶ月+昨年同様（一律28万円）で妥結した。

**【公共民間2023ストライキ批准投票結果について】**（ ）内は2022年

組合員数 3,742人 (3,955)	投票数 2,783人 (2,894)
賛成数 2,606人 (2,756)	反対等 177人 (140)
投票率 74.37% (75.80%)	批准率 69.64% (72.13%)

未実施単組数 13単組 (11単組)

自治労公民評【秋・春闘】の取り組み調査QRコード

回答締切は6/30だよ！

■自治労東京都本部・公共サービス民間労組協議会 発行 発行責任者/小泉治彦 編集者/平間英基  
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ4階 TEL:03-3556-3755 FAX:03-3556-3756

## 関東甲地連公共民間評議会 2023年度拡大幹事会【5.13】

5月13日（土）、TKP市ヶ谷カンファレンスセンターにおいて、関東甲地連公共民間評2023年度拡大幹事会が開催され、1都7県本部の公共民間評（協）議会から、四役を中心に24人が参加しました。

平間特別幹事（都本部民間協事務局長）の進行で開会し、冒頭、主催者として関東甲公共民間評の澤田議長は「コロナの影響で対面での活動や集まるという機会が極端に減少している状況です。これまで関東甲公共民間評は、年1回の定期総会、2年に一度の交渉力アップセミナー、年6回程度の幹事会を軸に運動について議論を進めてきました。この拡大幹事会は、コロナが落ち着いてきた状況の中で、交流の機会を確保するということが初めて企画をしました。今日の基調提起、各都県本部の報告を各県に持ち帰って、よいところを参考にしながら、運動を進めていただければと思います。」とあいさつしました。

次に、基調提起として本部公民評の橋本議長から「自治労公共民間評議会の取り組み状況」について説明があり、続いて各県本部の活動報告へと移りました。

- 他県本部の主な報告は次の通り。
- 【群馬県本部】** 評議会構成単組は全15単組（組合員：1,009人）、幹事は全単組から選出している。幹事会は年3～4回程度。他に年2～3回程度の学習会を開催している。また、要求回答や機関紙を取りまとめた「単組活動の記録」を毎年発行している。
  - 【栃木県本部】** 構成は全23単組+3自治体単組評議会（組合員数：2,001人）。幹事会は年5～7回程度。学習会は春と秋の闘争期に開催している。また、現業評議会、公営企業評議会と闘争委員会を構成している。県外の労組との交流会活動も行っている。
  - 【茨城県本部】** 構成は全7単組（組合員数：264人）、



- 幹事は全単組から選出している。幹事会は年5～6回程度。年1回程度、学習会を開催している。
  - 【埼玉県本部】** 構成は全19単組（組合員数：700人程度）、幹事は10単組から12人を選出している。幹事会は隔月開催。自治体および各業界関係団体に対する要請行動を闘争期に、県本部・自治体単組とともにやっている。
  - 【千葉県本部】** 構成は全10単組（組合員数：455人）。幹事会の開催が難しい状況。
  - 【山梨県本部】** 構成は全10単組、幹事は全単組から選出している。幹事会の開催も少なく、事務局（県本部）が中心となって活動をしている状況。
- 後半ではグループにわかれて、本部公民評橋本議長の提起や各県の報告をもとにグループディスカッションを行いました。各都県本部での評（協）議会で、コロナ禍の活動に苦労したことや幹事会はもとより、単組でも次代の担い手づくりが進まないなど、課題を共有し学んだことを持ち帰りました。

各種参加報告 ①

# 《4.29 中央メーデー・三多摩メーデー》

～新入組合員も参加！労働組合へようこそ！～



**【23区ブロック】**

民間協23区ブロックは、メーデー中央大会への結集を呼びかけ、4単組29人が参加しました。これまでは、公共民間単組もそれぞれ単組ごとにメーデーへ結集していましたが、今回は新入組合員の歓迎と23区ブロック各単組間の交流を目的として、メーデーに参加した公共民間単組の交流企画を開催しました。

参加組合員は、事前に幹事が準備した「くじ引き抽選」を行い、組合員同士の交流をすすめました。参加した新入組合員からは、メーデーが「イメージしていた組合の活動とは違った。他の組合の人と話せて良かった」などの声がかかれました。

今後も23区ブロックでは、組合員の顔見える活動をすすめ、組合員が組合活動を実感できる取り組みを企画していきますので、各単組のみなさんの参加をお待ちしています。



▲クジを引く参加組合員



▲23区ブロック萩原代表から景品を贈呈

**【三多摩ブロック】**

三多摩メーデーには、公共民間単組から8単組約40名が参加しました。

例年、三多摩ブロックではメーデーに出店し、売上金を被災地支援カンパやブロック独自の学習会費として活用するなど、積極的に参加してきました。

今年は出店を断念したものの、久しぶりに構成単組の組合員と対面で顔を合わせて交流ができたことが嬉しかったです。コロナ前と同様とはいきませんが、各単組からの自己紹介や情報交換にも花が咲き、また、統一地方選挙で当選した議員の方々とも意見交換を行うことができ、充実したメーデー参加となりました。



▲組合員の家族も多く参加しました

**【民間協にかかわる今後の主な集会・会議等】**

●自治労全国保育集会 (5/25都本部発文第359号)

日時：2023年7月29日(土) 14:00～17:00 全体会  
30日(日) 10:00～各分科会

場所：都内会場およびウェブ予定

●自治労公共民間評定期総会 (未発文)

日時：2023年8月19日(土) 13:30～

場所：自治労会館およびウェブ(予定)



各種参加報告 ②

# 《5.12～15 沖縄平和行進》



**参加者：田村鮎美さん**

(東京都人権啓発センター労組書記長)

5.15沖縄平和行進 三多摩行進団に民間協からの派遣で初めて参加しました。沖縄には旅行等で訪れたことはありましたが、平和学習や基地問題については全くの無知でした。

初日は昼過ぎに那覇空港到着し、平和ガイドの宇根悦子さんと合流し、一路、南部戦跡めぐりへ出発しました。

一つ目の訪問場所は「魂魄の塔」。「～の塔」というのは慰霊碑のことで南部にはとても多く、魂魄の塔がある米須地区には全国から沖縄戦に派兵された兵士のための各都道府県が設置した塔もあるそうです。米須地区は南部の中でも特に過酷な戦闘が繰り返された地域で、一般住民も多くの家で一家全滅したと言われています。その後、沖縄県営平和記念公園へ移動。ここは「沖縄戦終焉の地」と言われる糸満市摩文仁の丘陵を南に望み、南東側に険しく美しい海岸線を眺望できる台地にあります。日本陸軍守備隊(第32軍)司令部が最期を迎えた壕や、世界の恒久平和を願い、沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ記念碑「平和の礎(いしじ)」、沖縄県平和祈念資料館などを見学しました。公園内の「平和の広場」では制服姿の学生たちが「島唄」を合唱する様子も見受けられ、沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」が継承されていく様を垣間見ることができました。

初日の夜は行進団主催による交流会が催され、各団体の紹介があり、参加者それぞれの平和行進へのモチベーションを確認することができました。

2日目は糸満市役所から平和行進をスタート。天候にも恵まれ、沖縄の平和への願いや基地反対のシュプレヒコールをしながら午前中いっぱい歩き、ひめゆりの塔へ到着しました。その後、糸数アブチラガマを見学。ガマの入口は



とても狭かったが中は広々としていて、見学者の照らすライトを消すと想像を絶するような暗闇になり、集団強制死が起こった当時のことが思い起こされるようでした。

3日目は宜野湾市にある沖縄コンベンションセンターで「第46回平和とくらしを守る県民大会」に参加しました。来賓には玉城デニー沖縄県知事の挨拶がありました。その後バスで嘉手納基地が見渡せる「道の駅かでな」へ移動。嘉数台公園の展望台からは普天間基地に駐機されているオスプレイを見ることができました。その後、那覇市まで戻り対馬丸記念館を見学しました。「対馬丸」は九州を目指して沖縄を出航した学童疎開船で、那覇から長崎に向かっている途中で米潜水艦ボーフィン号の魚雷によって撃沈されました。800人あまりの子どもを含む約1800人のうち、子ども780人を含む1485人が死亡し、一度にこれほど多くの子どもたちや民間人が犠牲になったのは対馬丸において他にはないと言われています。

最終日はキャンプ・シュワブでの辺野古基地建設阻止・支援行動/集会に参加しました。参加人数が多く「座り込み」はできず、立った状態での抗議行動でしたが、毎週月曜日に座り込みをしているという沖縄県退職教職員会のメンバーの姿もありました。高齢の参加者も多かったが、皆一同に辺野古基地建設反対への想いは強く、団結することの大切さを実感できました。

今回、行進団に参加して気づかされたことは、自身が沖縄はもとより、戦争やその歴史、日本の安全保障と基地問題、そうしたことにいかに無関心であったかということです。テレビやネットでのニュースで時々耳にする程度で、その実相を全く理解していなかったことを不甲斐なく思いました。私たちが恒久と思う現在の平和は、多くの犠牲の上に成り立っている。そしてその犠牲は現在進行形で続いているということに、私たちひとりひとりが自覚的であるべきだと、強く感じた4日間でした。